

月刊ウィーン GEKKAN-WIEN

Monatsmagazin Japanisch

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙

創刊平成元年 創刊31年目 **Nr. 352**

2019年1月号



Pieter Bruegel d. Ä. Die Jäger im Schnee 「雪中の狩人」左部分 1565 Eichenholz 117x162 cm Kunsthistorisches Museum Wien, Gemäldegalerie © KHM-Museumsverband
ウィーン美術史博物館 1月13日まで「ブリューゲル」展にて展示 / 1月31日から展示室 Saal Xにて展示



杉本純の原子力の話II ウィーンと京都 85

国連の欧州経済委員会（ECE）が十一月十二日（十五日まで）、ウクライナのキエフで開催した「持続可能な発展に向けた国際エネルギー・フォーラム」で原子力が初めて議題の一つに取り上げられ、高度な脱炭素化を進めるにあたり原子力がどのように貢献していくか議論が行われた。今回のフォーラムは、約三〇年前にチェルノブイリ事故を経験した同国政府が、ECEを始めとする国連の五地域の経済委員会と共催した。その中で、世界原子力協会（WNA）と国際原子力機関は「原子力と持続可能な発展…脱炭素化したエネルギー・ミックスにおける原子力の役割」と題するワークショップを共同で開催。ウクライナのエネルギー・石炭産業官は、同国のエネルギー・インフラの中で原子力が今や主要な柱となっている事実と言及した。同国の複数の専門家も、ウクライナの持続可能な発展という目標に原子力がいかに貢献しているかを紹介したほか、英国、カナダからの参加者は、高度な脱炭素化の実現で原子力が寄与している国家プログラムについて説明した。



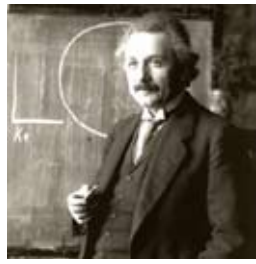
https://www.jaif.or.jp/181119-a

ワークショップでモテレータを務めたリーシングWNA事務局長は、二〇一五年に採択されたパリ協定について、「世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度Cより十分低く保つ」という目標の達成に向けた動きが世界ではあまり軌道に乗っていないと述べた。片や、世界三〇ヶ国で稼働する約四五〇基の商業炉は、世界の総発電電力量の約十一%

を供給するとともに、二〇一五年には低炭素電源の中でも二番目に大きい約三〇％という発電シェアを達成。毎年、約二〇億トンもの二酸化炭素排出抑制に原子力が貢献していると強調した。同事務局長はまた、現在の原子力発電は過去六〇年にわたる技術革新や供給チェーンが生み出したものであり、信頼性の高い電力を大規模かつ適価で提供できるとした。ワークショップの議論総括でも、「グリーンな電力への需要増に対応するため、世界の原子力産業界は二〇五〇年までに原子力で約二五％の電力を供給するビジョンを打ち出した」と指摘。そのためには、再生可能エネルギーなどの低炭素エネルギー源とも、協働していく考えを明らかにしている。

ワークショップでモテレータを務めたリーシングWNA事務局長は、二〇一五年に採択されたパリ協定について、「世界の平均気温上昇を産業革命以前と比べて2度Cより十分低く保つ」という目標の達成に向けた動きが世界ではあまり軌道に乗っていないと述べた。片や、世界三〇ヶ国で稼働する約四五〇基の商業炉は、世界の総発電電力量の約十一%

一方、改造社による日本招待により、アインシュタインは一九二二年十月に定期貨客船北野丸に乗りマルセイユを発った。船上の十一月十二日にノーベル物理学賞受賞の報を聞く。十一月十七日には神戸港へ入港し、山本改造社社長、長岡半太郎、東京帝大教授、石原純東北帝大教授などが出迎えた。その日は神戸から京都まで汽車で移動後、日本の第一夜は京都の都ホテルに宿泊した。翌日は下鴨神社、平安神宮などを車で見学し、東京に移動した。その後、十二月二日九日まで、東京、仙台、大阪など各地の大学等で講演を行った。京都には十二月九日に戻り十七日まで滞在した。その間、十日には京都市公会堂で約千人の聴衆を相手に講演し、十四日には京都大学で学生約千五百人に講演している。京都では、知恩院、清水寺、西本願寺、御所などを見学した。アインシュタインは両市で熱狂的な歓迎を受けたのが共通している。



アインシュタインは、母校チューリッヒ連邦工科大学の教授だった一九一三年九月二四日にウィーンの市立公園近くの音楽ホールで開催された第八回ドイツ自然科学者・物理学者学会の年会で招待講演をしている。四千人以上の聴衆が集まった。一九一五年に発表される一般相対性理論に繋がる重要論文の発表とされている。その後、一九一九年の皆既日食を利用して、一般相対性理論により予測される太陽近傍での星からの光の曲がりを確認したことで理論の正しさが認められ、アインシュタインは世界で最も有名な物理学者となった。一九二二年一月にもウィーン大学実験物理学教授のエーレンフェルトの世話により、同大学物理学研究所で講演したほか、市中の大ホールでの一般講演では三千人以上の聴衆が集まった。

杉本純の原子力の話II 「ウィーンと京都」の第1回からの全記事が次のサイトに掲載されています：<http://wattandedison.com/Sugimoto.html>

Digitalisierungshauptstadt



ミヒヤエル・ルートヴィヒ Michael Ludwig 市長は首都としてのウィーン市のために具体的な5つの目標を掲げてデジタル化プロジェクトを発表。2019年前半期にその詳細が紹介される。

デジタル化首都戦略

- (1) インフラ：5G（第5世代移動通信システム）※既に市庁舎前広場で5G先行プログラム実施
- (2) 教育：スクールW-LAN強化
- (3) 健康：WAALTER健康生活管理
- (4) 安全：AIサイバーセキュリティ
- (5) 行政：公共空間デジタル化

